

リスク管理

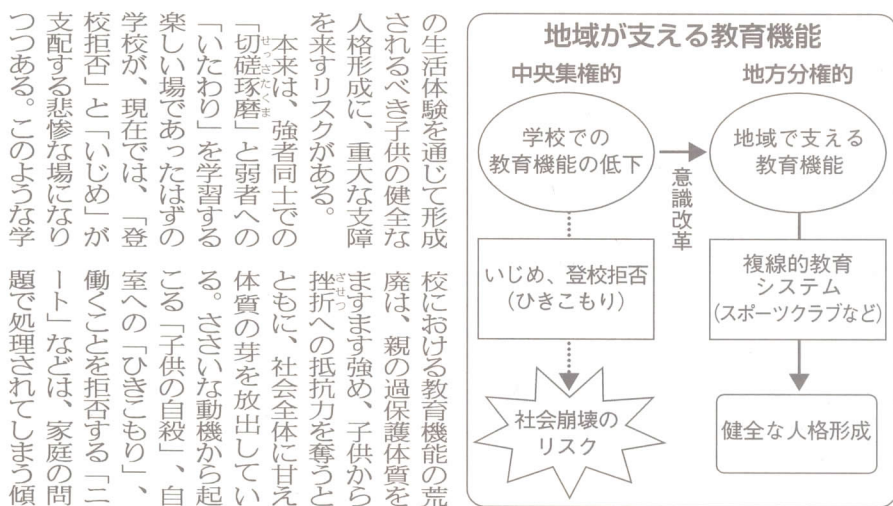
少子化においては、家庭や地域コミュニティにおいて子供が減少する結果、小学校でのグループ活動が出来ない、大学経営が破綻し研究者がリストラされる等、社会全体の教育機能が低下するリスクが現実化しつつある。

◇ 学校での教育機能には、「個人の知識」を獲得するという面とともに、同世代や異世代との交流を通じ「社会の知恵」を学習するという重要な機能がある。クラスでは協調性や連帯感、クラブ活動を通じてリーダーシップやノウハウの伝承など、社会に出てから必要となる「知恵」を身につける場となっている。ところが、少子化によって子供同士の交流が欠如していると、これら

リスクマネジメント

ABC

少子化と教育機能低下



地域の問題として考える

の生活体験を通じて形成されるべき子供の健全な人格形成に、重大な支障を来すリスクがある。

本来は、強者同士での「切磋琢磨」と弱者への「いたわり」を学習する楽しい場であったはずの学校が、現在では、「登校拒否」と「いじめ」が支配する悲惨な場になりつつある。このような学

向があるが、社会が持つべき教育機能が低下した場合に起こるリスクを、先行的に示す社会現象と見るべきであろう。

一方、少子化によって、教育インフラや職業者の面での需給のミスマッチが広がることになり、児童数の減少によって、未成年者を主たる対象とした既存の教育施設を余剰化させるとともに、高齢化による生涯学習ニーズに応える施設需要が急増するためである。また、大学全入時代と言われ、オーバーキャパシタス状態を解消するために、経営的手法により高等教育のリストラクチャリングが避けられない状況となる。これらは、教師や教授などの教職従

事者にとっては、職を失うリスクとなる。

このような少子化による社会全体の教育機能の低下に対しては、教育制度を硬直的な中央集権型から柔軟な地方分権型に変化させ、教育を地域問題として対処できる構造に転換させる必要がある。これは、家庭においても、教育は地域社会での自己責任であるとの意識改革を迫ることになる。過度に学校や教師に依存せず、余剰教育施設を活用し、地域でのスポーツクラブ教育、ボーイスカウト教育、伝統技能教育、生涯教育などの複線的な教育システムによって、心身ともに健康な子供を育成するとともに、世代間交流の出来る社会をつくるのが、現代に生きる我々の責務である。(日本総合研究所)